

平成の思い出

（文責） 藤岡 健司

平成5年頃でした。8月、8月の渇水で1ヶ月半24時間の完全断水。我が家でも、今まで長期の渇水経験が無く、水用ポリタンクや水工面。風呂に入らず、食器も洗えず、当然洗濯も出来ませんでした。簡易水道・組合水道から市の上水道に切り替えられ、今は安定した水道で生活が出来る様になりました。あの時期を思えば、水の大切さを思い、節水する心がけが成長した気がします。今回、水道復旧の新聞記事を手しましたので、三秋新聞に記載いたしました。



●平成八年（一九九六年）五月二日（木曜日）愛媛新聞より

待望の上水道完成 関係者ら
通水式 百三十八戸が恩恵

一昨年の異常渇水時に一ヶ月半の完全断水に追い込まれた伊予市三秋地区に待望の上水道施設が完成し、一日、三秋集会所で通水式があった。住民は「水の苦労から解放される」と胸をなで下ろしている。

同地区はこれまで地下水が水源の簡易水道や組合水道で給水を受けていたが、渇水で断水が続いた。関係者らは「渇水で断水が続いたのは、上水道が完成し、一日、三秋集会所で通水式があった。住民は「水の苦労から解放される」と胸をなで下ろしている。」と胸をなで下ろしている。

ポインとは、細かく砕いたピーナッツのアクセント。人参以外はすべて三秋産で、何れは、全て三秋で獲れた食材で、お総菜やおやつを作っていた。それを、今後のイベントや行事の際に、試食・販売して三秋を盛り上げていきたいと思っています。三秋住民の皆さんにも、アイデアや、食材提供など協力して頂けると大変うれいす。皆さんの力で三秋を盛り上げていきましょう。宜しくお願いします。



第13回伊予市駅伝

（文責） 稲多 早由



グラウンドから外のコースへ

2月3日（日）、時に小雨舞い散る寒空の下、伊予市駅伝大会が、しおさい公園で開催されました。小学生の部に川本浩輝くん、河野彩和さん、河野翔太くん、河野魁心くん、中学生の部に川本悠雅くん、稲多教経くん・慶次くん、一般の部（体育会）に助田健二さん、河野姫和さんが参加しました。チームのたすきを繋

していたが、不足しがち。一年は水道が枯渇し、市が設備した四ヶ所の給水所だけが頼りで、不便を強いられた。配水工事は昨年十二月から総工費一億九千万円かけて行われた。集会所内に中継加圧ポンプを設置、一日の最大給水量は二百十トン。百三十八戸が上水道に切り替わり、同市の上水道普及率は八十七%になった。通水式には市関係者や住民など五十人が参加。増野市長、菊山泰治議長、折井哲夫区長が中継ポンプの作動スイッチを押し、上水道に切り替えた。蛇口から勢いよく水がほとばしり、大きな拍手が起きていた。折井区長は「渇水時には県内各地から支援を受けた。今後とも限られた水資源を大切にします」とお礼を述べた。

三秋から明神山へ 登る！

（文責） 中藤 彰悟



石鎚分社祠下にある鎖場

これまで明神山への登山に挑んだものの、登る道が分らなく

ぐため、どの方も諦めず、一生懸命走りました。この日を迎えるために、たくさん練習もしたと思います。本当にお疲れ様でした。



前ランナーからたすきリレー



走り終えた三秋の小学生たち



走り終えた三秋の中学生たち

なってしまう上、大繁茂したシダ植物によって、道が完全に無くなっており、三秋側からは登る事が出来ないでいました。そこで我々は、中山側から一度登り、山頂から三秋へ降りてくる事で、新たに道を開拓する作戦にしました。しかし、中山側からの道も何年も人が通った形跡も無く、雑草を切り払いながらの登山でした。そうして、二度目の登頂の時に三秋側へ下りながら、道を付けて行きました。山頂近くは、山の稜線に沿うならかな道なのですが、三秋側へ下り始めると傾斜もきつく、所々はシダが大繁殖しており、草をかき分け踏み固め、道を作りながら下りていきました。こうして何とか下りた所がちょうど、みみど池の奥辺りでした。こうして下りてきた道を逆に辿って、ようやく三秋側から明神山山頂への道が出来たのですが、まっすぐ下りてきた道を逆に登る為、道のりの半分ぐらいが急勾配を登る直登ルートになってしまいました。加えて、所々は雑草とシダが多く、歩くのも大変な道のりで、とりあえずは、三秋から明神山へは登れるようにはなりましたが、かなり厳しい登山ルートになってしまいました。今後は三秋の皆がもっと気楽に登れるように、緩やかに登れるルートを開拓、整備していかなければならないと思います。この記事を読んでもくださっている方で、昔の道を存じの方がいらっしゃる方も、是非、みみど池の方へ一報下さい。よろしくお願いします。

輝いてますよ、三秋

（文責） 吉田 克浩



おやこ交通安全教室

（文責） 原田 夏子

北山崎校が散り始めた、4月12日、今年も北山崎小学校で、伊予署、交通安全協会の指導の下、交通安全教室が開催されました。今回は、ダミー人形を使って、実際に車にぶつかったら、どうなるかという実験をし、その後に、白バイを使ってブレーキをかけてから止まるまで、どのくらいかかるか、実験しました。ダミー人形を使った実験では、人形がひかれる瞬間、悲鳴が沸き、子供たちは恐怖を感じたことでしょう。これらの実験で、子供たちはいろいろな学んだことだと思います。安全教室の様子は、南海放送ラジオで生放送されました。ラジオをお聞きになった方々にも、交通安全について考えて頂けたと思います。これからも交通安全ルールを守って生活していきましょう。



ダミー人形による衝突実験

秋がモデル地区に選出され、何度か議論を重ねているが、皆さんの顔から読み取れるのは、この表情。人口を増やす為の移住は、夫婦で来れば2名、家族なら3〜4名一気に増となるのだから美味しい手段ではある。しかし、どうすれば移住者がここに来るのだらうと考えたところで思考が停止する。「ここ何もないしなあ」「そんな人はいるのかなあ」と。そこで、次の文章を読んで欲しい。『将来、子どもたちが独立したら移住を考えています。まだ具体的な移住地は決まっています。山頂近くは、山の稜線に沿うならかな道なのですが、三秋側へ下り始めると傾斜もきつく、所々はシダが大繁殖しており、草をかき分け踏み固め、道を作りながら下りていきました。こうして何とか下りた所がちょうど、みみど池の奥辺りでした。こうして下りてきた道を逆に登る為、道のりの半分ぐらいが急勾配を登る直登ルートになってしまいました。加えて、所々は雑草とシダが多く、歩くのも大変な道のりで、とりあえずは、三秋から明神山へは登れるようにはなりましたが、かなり厳しい登山ルートになってしまいました。今後は三秋の皆がもっと気楽に登れるように、緩やかに登れるルートを開拓、整備していかなければならないと思います。この記事を読んでもくださっている方で、昔の道を存じの方がいらっしゃる方も、是非、みみど池の方へ一報下さい。よろしくお願いします。』

皆さん何か感じませんか？私はすぐに三秋が頭に浮かびました。空気がきれいな山のふもと：まさにここ三秋です。投稿者は埼玉県在住の女性ですが、この方が稀少人物ではありません。これはほんの1例。今や都心には、このような人々がうじゃうじゃいるのです。その事をまず理解して欲しいと思います。引用致しました。確かに、移住は生き方を根本から変える事象であり、容易い事ではありません。全員が実現する事は出来ないうちに、皆さんの想像以上に予備軍豊富な市場なのです。だから三秋なんて...と思わな

い下さい。三秋には山や綺麗な空気のみならず、池も川もすぐ近くには輝く海もありますよね。私が伝えたいのは、今世間で移住の目的地となっているのは、三秋の「ような場所」だと言う事、そして予備軍で溢れていると言う事です。そのように



実際の横断歩道で実践

みあきのピッカピカ 一年生

（文責） 原田 夏子



今年度の新一年生は、高井歩夢くん（7歳）です。小学校で楽しみにしていることは、新しい友達を作ったり、サッカーをすることだそうです。勉強では、国語を頑張ります。お昼の給食も楽しみにしています。夢に向かって頑張ってください。皆さようしくお祈りします。入学おめでとうございます。



下三秋の高井歩夢くん

意識を切替えて貰えば、あとは「ような場所」を「こんなだ」と変化させていく事が出来ます。その為に皆さんが集まって、自分達の地域を学び、集まって、それを今ワークシヨップで実践しておられるのですよ。それともう一つ、地域の魅力は与える物ではなく、それは移住者自身が見つけるものだから。この展開はきつと広がりますよ。拍手。

ここまで読んで頂いて：ところで「あんた誰？」と言われて、2年程前に京都市から郡中への移住者です。「何で郡中なの？」そうですよ、三秋は移住するまで知らなかったからです。そして「ちよっと」後ろ髪を：すよ。拍手。



振り込め詐欺にご用心

（文責） 吉岡 満



伊予署の警察官から説明



三秋産ピーナッツなます

みあきの特産品試作

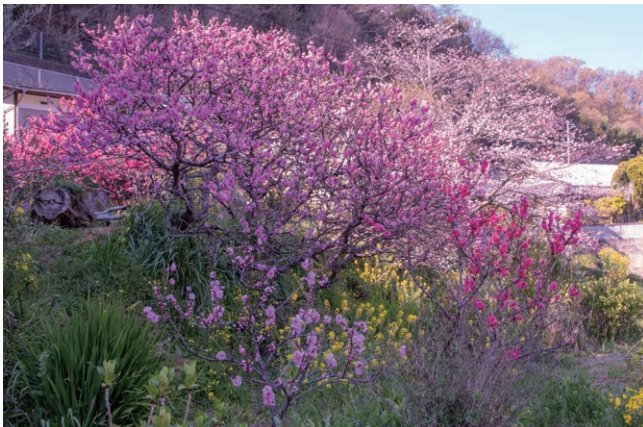
（文責） 原田 夏子



坂井さん宅裏山にて河津桜バックに

桃の花、愛でる

（文責） 原田 夏子



三浦さん宅の桃の木

4月の初旬、三浦恵美子さんの家の桃の花を見に行きました。色鮮やかな花が咲いていて、とても綺麗でした。桃の木の後ろには、桜も咲いていてダブルで見えた気がします。皆さんも来年の春、観賞してみてもいいかな。

